（様式２別紙）

（団体名）認定NPO法人Switch
（事業名）2019**みやぎ高校生『絆力』向上プロジェクト　ロジック・モデル**

	インプット	活動	アウトプット	アウトカム		
				初期	中期	長期
生徒	Café事業、学外相談窓口機能の周知活動と利用募集 スタッフ 石巻・・2名 仙台・・2名 大学生ボランティア4名	NOTECaféの実施 ※学校に合わせたオーダーメイドの学内サードプレイスとしての機能+学校の進路決定のレールに乗れない生徒への伴走型進路決定支援、準備訓練（相談、SST、職業評価等） サードプレイスとして機能を持たせることで、何気ない会話から課題　の小さなうちに発見・介入が可能 学校では拾いきれない中退予防 基本3校+スポット開催	モデル校への訪問 30回×2校＝60回 スポット校開催×5回	学校と家庭だけの閉塞感から脱却することが出来、安心して進路に目を向けることができるようになる	地域での働くことを具体的にイメージできる若者が増える	利用学生が地域の担い手になる
			Caféでの相談、訓練等 60回×平均3名＝180名 ＋スポット5回×平均10名＝50名		ツールを使いながら自身でセルフケアの為の工夫ができるようになる	自己肯定感が高くなることにより、被災に起因するPTSD等の苦痛の軽減や自己対処につながる
			生徒の進路決定 ・・10名 他中退予防等	大学生ボランティアとの関わりにより、年齢の近いモデルとの接点ができ、より自身の将来について深く考える機会が持てる	地域との信頼関係を構築し、卒後の進路の選択肢が増える	
			大学生ボランティアスタッフによるCaféフォロー　各回			ツールを活用して、援助希求ができるようになる
			学外窓口の設置 石巻、仙台に各1か所　計2か所	本来、進路決定が難しく高校卒業のタイミングで進路決定をあきらめてしまう生徒が減る	課題に取り組んでいく過程で自己肯定感が高まる	
			学外窓口での相談 1か所75件×2か所＝150件			今まで対応の難しかった生徒の進路に希望を持つことが出来、他校と共有することで選択肢が増える
学校	モデル校・スポット校の選定、選出 石巻2校（昨年度から継続）+定期は難しいと感じているが、一定の必要性を感じている被災地域の高校	学外窓口の設置 学校内では拾い上げられない生徒の相談窓口として機能（学外のサードプレイス、インターン、職業評価等、進路選択、他支援機関との接続）	学校との情報共有の機会創出 1校3回×2校＝6回 +必要に応じて実施	サードプレイスの存在に安心感を得られるようになるそのことで、子どもの抱える課題に対し、早期発見、介入が可能になる	生徒指導の方法の一つとして他機関との連携が増える	被災により居場所を失った高校生が校内に、誰でも参加可能な居場所ができる（サードプレイスの拡大）
		定期的な情報共有	みやぎ『まなぶ・はたらく』サポートブックの配布	学校・地域のつながりが増える・生まれる	今まで対応したくてもしきれなかった生徒へのフォローにより教員の負担感減・肯定感増	援助希求に対して手を差し伸べる地域の大人が増える
地域	地域サポーター募集	活動報告、研修等発信 シンポジウム実施	必要に応じて保健師や若者等の支援機関との接続	様々な課題を持つ子ども、若者と接する機会が増え、興味関心が高まる。地域のサポーターと連携。	課題を抱える若者への支援の希望者が出る	被災地ならではの多様性を認めるような雇用の創出をすることで、人口流出が減り、人材不足の解消
	地域のインターン・見学先への事業説明		地域の若者と関わる機会の創出 延べ30回		地域での就職者が出る	
	シンポジストへの依頼 シンポジウムの告知	みやぎ『まなぶ・はたらく』サポートブックの作成	シンポジウム実施 対象：地域の支援者・学校関係者・保護者等50名参加		地域の中に見学、実習の受け皿等の社会資源が増える	関連団体が参入することで、より広い被災エリアにサードプレイス創出の活動が広がる

※事業の成果に必要な要素を図示化してください。※見やすいようにデザインを工夫してください。※注釈や記載例,不要な図形は削除してください。